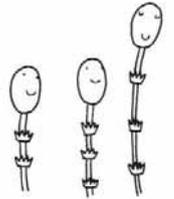




# 下大和田谷津田だより

2005年3月号



## 第61回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

2月6日 晴れ

千葉大学、東邦大学の学生さんが十数名参加し、若い方々と華やいだ観察会でした。クズ、ニワトコなどの人の顔を思わせる冬芽と葉痕を見たり、鳥の姿や声に目、耳を澄ませて散策しました。田んぼでは例年より早く、ニホンアカガエルの卵塊が見られ、みんなで手分けして数えました。真冬の田んぼですが、ゲンゴロウの仲間やマツモムシなどが元気に動き回っていました。野鳥の越川先生も来られて谷津田の自然や鳥について解説していただきました。「人が田、畑、山林などに係わる中で多様な生態系が保たれてきた。田んぼが放置されて、葦やセイタカアワダチソウに覆われるとメダカやカエルは住めなくなる。それを餌とするものも暮らせなくなり、多様性は失われる。ニホンアカガエルの卵塊がたくさんあるが、市川市では今年はもう見られないかも知らない。ここではニホンアカガエルのいるのが当たり前のことのように思えるが5年も経つと何処もいなくなる可能性がある。鳥も影響を受ける。」

千葉大の皆さんは今までもYPPの田んぼ作りに参加していますが、休耕田を耕して、自分たちでも田んぼをやりたいとのこと。ちば環境情報センターの福満さんが仲立ちして、私達の田んぼのお隣の大塚さんの休耕田をお借りして活動することになりました。感性豊かな若い人達が、田んぼにかかわることで、大げさに言えば人生観が変わる？のではないのでしょうか。色々なことが見えてくるでしょう。また、自然の恵みにきっと感動してくれるでしょう。期待しています。

開花植物：オオイヌノフグリ、セイヨウタンポポ；昆虫：ヨコズナサシガメ幼虫コロニー、マツモムシ、小型ゲンゴロウsp、シマアメンボ。ヤママユガの繭、ウスタビガの繭；野鳥：セグロセキレイ、ツグミ、アオジ、ノスリ、メジロ、ヒヨドリ、キセキレイ、モズ、タヒバリ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、チュウシャクシギ、ウグイス、コゲラ。ヒヨドリの羽毛散乱（オオタカの食痕？）；その他：カワニナ。

ニホンアカガエルの卵塊：広場下の田んぼ12個、柳の木の手前の田んぼ53個、われわれの田んぼ16個、大塚さんの田んぼ60個（すでにオタマジャクシが孵化しているものあり）、合計141個

（参加者：大人19人、子ども4人；報告：網代春男）

## 第45回谷津田プレートッド・プロジェクト(YPP)

### 「田んぼづくり、林づくり」

2月27日 晴れ

朝はグンと冷え込みましたが快晴の暖かな日差しに恵まれ、気持ちよく田んぼと林での作業ができました。田んぼでは畦を補修。コシヒカリ田とカヤネズミ田では下の田んぼに水を落とすところに大きな穴があいていたので、一度全部崩して土のうを組み直しました。土のうの周りのちょっとしたすき間が大きな穴になってしまったので、すき間をなくしたり、間にどろどろの土を入れたり工夫しましたが、果たしてうまくいくかどうか？畦づくりの難しさを改めて感じました。また、隣の田んぼで米づくりをされている大塚さんの指導を仰いで、畦の「くろ塗り」もしました。畦が低くなり、へりが崩れて田んぼとの境がよくわからなくなっていたのですが、くろ塗りをすると見違えるほど立派な田んぼになります。林では道に張り出した杉の枝を切ったり、テーブルの上面に竹を張ったりして、ますます気持ちのよい場所になってきました。千葉大の学生チームは大塚さんの休耕田を田んぼに復活する作業に挑戦することになり、まずは雑草の刈り取りをして、端を少し起こしてみました。雑草の根がびっしり張っているのだから田起こしが大変そうですし、水を入れるとひざの上までの深さの田んぼになるようですが、若い力ではがんばってくれることでしょう。

これで今年の米づくりに向けての準備ができました。みなさん、お疲れさまでした。田起こしは4月24日です。

（参加者：大人19人・小中学生4人・乳幼児2人、報告：高山邦明）

## 下大和田季節のたより

2月27日 田んぼの作業を始める前にアカガエルの卵の様子を見ました。ほとんどの卵塊でオタマジャクシがえっていましたが。まだ卵塊の場所に黒くかたまっています。卵塊数は私たちの田んぼで53個に増えていました。田んぼの中をよく見ると、日差しを受けて暖まった水の中でたくさんのミジンコやシマゲンゴロウ、コミズムシなどが泳ぎ、サカマキガイが産卵し、水面ではコモリグモや小さなトビムシが動き回っています。その生きものの多さにいつまで見ても飽きません。水中のさなぎからユスリカが唐突に姿を現し、パッと飛び立っていく感動的なシーンには拍手が起きました。春に向けて生きものの活動がはじまっています。

田んぼではアカガエルのオタマジャクシがたくさん生まれました。ミジンコやトビムシなど、谷津田の生態系を支える小さな命も姿を現し始めました。生きものでにぎわう春の訪れ間近です。春をさがしにぜひ、身近な田んぼに出かけてみましょう。

高山邦明